

I. 表土剝離・藻類に有効な新除草剤

1. 背景とねらい

近年水田への稲わら等未熟有機物の施用、活着肥の普及、灌漑水の富栄養化等の要因で、本田初期の藻類、表土剝離の発生が見られ、これらの雑草が水稻苗の引き倒しや、水温・地温の低下による水稻の初期生育への抑制害が問題となっている。今回表土剝離藻類に卓効を示す混合剤が開発され、その除草効果が高く、水稻に対しても安全なことが確認され、また、ACN粒剤を一発除草剤に混合して使用することによっても同様な効果が確認されたので参考に供する。

2. 技術内容

1) ジメタメトリン・プレチラクロール粒剤

商品名：バレージ粒剤 試験名：CG-113D粒剤 成分：ジメタメトリン0.1%
プレチラクロール 2.0% 毒性・魚毒性：普通物 B類

(1) 除草剤の特性

両者を混合することにより、プレチラクロールの幅広い殺草スペクトルにジメタメトリンの表土剝離・藻類の発生抑制効果を補足した効果を示す。

(2) 使用方法

初期除草剤であり、移植後3～7日(ノビエ 1.5葉まで)に湛水のまま均一に散布し、2～3日間は水を切らない。表土剝離・藻類の発生抑制効果は、表土剝離発生前の処理の場合10日程度である。漏水田や極端な浅植では生育抑制の薬害を生じることがあるので使用をさける。

2) ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール粒剤

商品名：クサホープD粒剤 試験名：CG-SW[Ⓔ]D粒剤 成分：ジメタメトリン0.2% ピラゾレート6.0% プレチラクロール1.5% 毒性・魚毒性：普通物 B類

(1) 除草剤の特性

ピラゾレートとプレチラクロールの混合剤は、一年生雑草から多年生雑草まで幅広い殺草効果を示す一発除草剤としてすでに普及しているものである。この剤にジメタメトリンを混合することにより、ピラゾレート・プレチラクロール粒剤の除草効果に、表土剝離・藻類発生抑制効果を補足した効果を示す。

(2) 使用方法

移植後3～10日(ノビエ 1.5葉まで)に湛水のまま均一に散布し、3～4日間は水を切らない。表土剝離、藻類の発生抑制効果は、表土剝離発生前の処理の場合10～14日である。漏水が少なく難防除雑草の少ない水田では中・後期剤をはぶくことができる。

3) A C N粒剤の一発除草剤への混合法(表土剝離、藻類の発生防止法)

商品名: モゲトン粒剤 試験名: A C N粒剤 成分: A C N(アミノクロルナフトキノン)9.0% 毒性、魚毒性: 普通物 B_s類

(1) 除草剤の特性

A C Nと一発除草剤(クサカリン粒剤25、オーザ粒剤、ワンオール粒剤)とを混用することにより、一発除草剤の除草効果にA C Nの表土剝離、藻類の発生抑制効果がプラスされた効果が期待できる。なお、混用により薬害等が増幅されることはない。

(2) 使用方法

一発除草剤(クサカリン粒剤25、オーザ粒剤、ワンオール粒剤)3kg/10aにA C N粒剤を1～2kg/10a混合し散布する。表土剝離、藻類の発生抑制効果は15～20日程度。砂質土壌や極端な漏水田では下葉枯れ症状等を呈するので使用しない。

3. 指導上の留意事項

- 1) バレージ粒剤はコナギ、ヒルムシロに効果が劣るので、これらに有効な中期除草剤と組み合わせて使用する。
- 2) バレージ粒剤、クサホープD粒剤の表土剝離、藻類への効果は、表土剝離発生前の処理で効果が高く、表土剝離発生後の処理では効果が劣る。
- 3) A C N粒剤の魚毒性は B_s類であるので、本剤が河川・養魚池などに飛散、流入しないように特に注意する。

4. 参考文献・資料

- 1) 水稻作関係除草剤試験成績書 昭和59.60.61.62年 岩手農試 県南分場
- 2) 除草剤展示圃成績書 昭和62年 岩手県 県植防
- 3) 改訂・最新除草剤解説(1987) 日本植物調節剤研究協会
- 4) 普及指導上の参考事項 昭和53.59年 岩手農試
- 5) 昭和62年度 水稻除草剤摘用性試験成績概要 日本植物調節剤研究協会

5. 試験成績

省 略